



幸樹

こう じゅ

第 82 号

2022 年 1 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

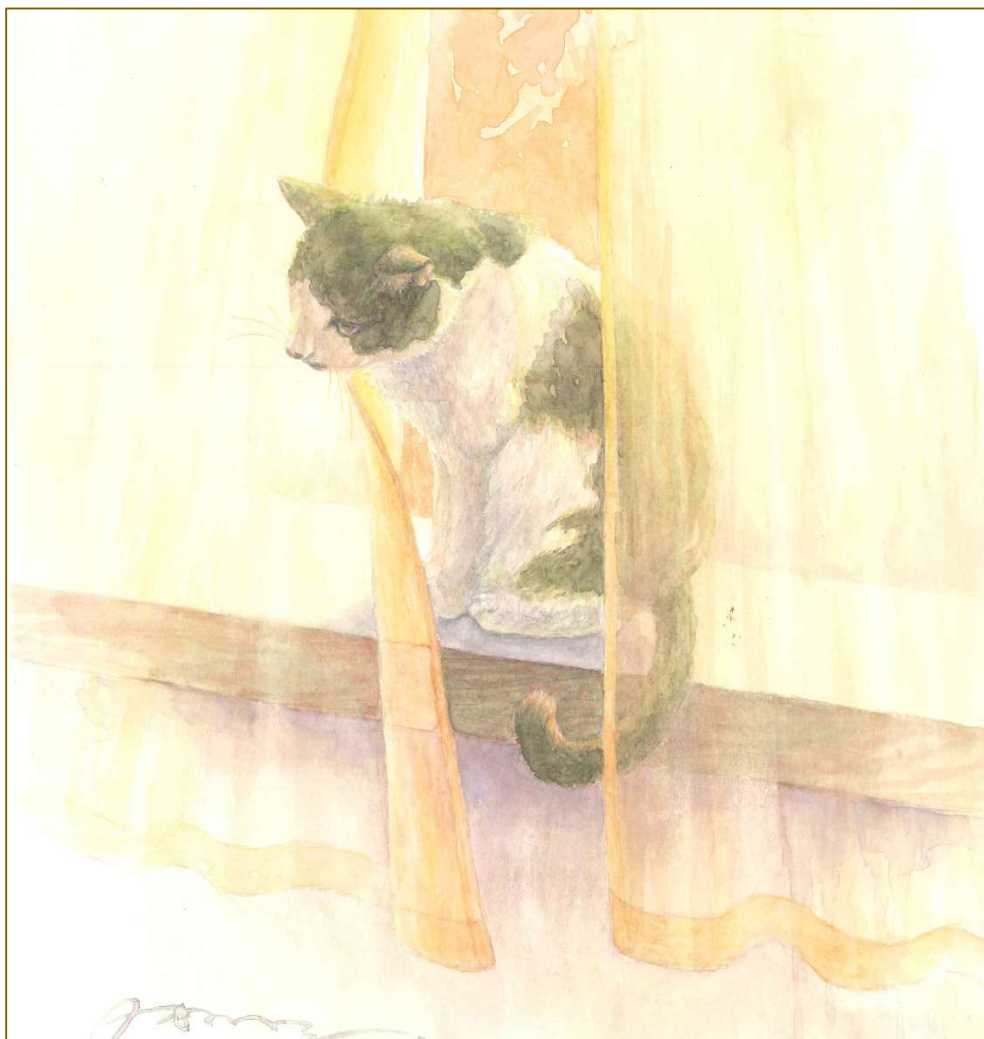
あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



『春の日差し』

絵・高橋 聖大

あけまして おめでとうございます

一般社団法人幸樹会代表理事 中野 三代子

昨年中、皆様にはたいへんお世話になりました。昨年は、新型コロナウイルス感染で自宅療養を余儀なくされ亡くなる人が増える中でオリンピックが行われるなど、心が痛み気が気ではない毎日が続きました。幸樹会では、人々の交流が無くなったなか、なんとか絆を繋ぐ活動をと取り組んできましたが、元通りというわけにはいかず、もどかしい思いもしました。



この機会に学習会や会議などはリモート会議などを活用し、事前に報告したい内容を整理してメールで資料を配布する、限られた時間で有効に議論するなどの習慣

が根付きつつあります。この間の時間と社会状況は、私たちの仕事をあらためて考える機会にもなりました。

コロナ禍は、人々が生きていくうえで欠かすことができない大気・水・土壌などの自然的環境、農漁林業、エネルギー、医療・介護・福祉、教育、交通運輸などの「社会的共通資本」といわれる社会的共同事業をまもり豊かにさせる必要性をいっそう明らかにしてきました。私たちの仕事は、その重要な役割を担っていることを自覚し、個人の尊厳を守り良質なケアを提供できる力をさらにつけて行きたいと思えます。

寅年の寅という文字は「春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態」を表しているとされています。幸樹会も成長する1年となるよう取り組んでいきたいと思えます。

医薬分業の 質向上のために 「処方意図」を 伝えてみよう

今年最初のインタビューは鼎会（三和病院・八柱三和クリニック）の理事長・齊藤丈夫先生（内科）です。齊藤先生は、診察時の説明をリーフレットにして患者さんに手渡すことを30年以上続けてきました。その種類は数千枚になるといいます。

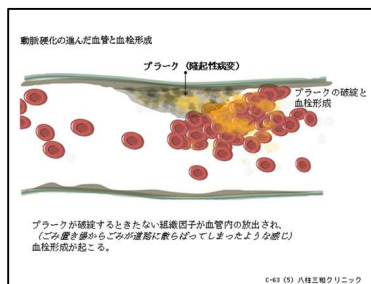
今年は、新たに調剤薬局薬剤師向けにリーフレットと共に医師の処方意図を示したのも発行しようかとの画期的なご提案をいただきました。そこで中野三代子幸樹会代表理事とともに聞きしました。

（聞き手・からたち薬局管理薬剤師 松下泰樹）

昨今はインフォームド・コンセント（説明と同意）といって検査や治療の承諾書や入院診療計画書など、患者さんに文書を渡すことが多くなりました。これらが必要なことに疑いの余地がありませんが、100%患者さんのためか言われれば、それは自信がないですね。医療機関側の保険点数算定やリスク回避という側面もあるからです。

リーフレットを使って病気・治療の説明

さて、診察室で医師の話す内容には療養上大切なことがたくさんあります。しかし患者さんはメモをとっているわけではないので、覚えておくのは大変です。そもそも医師の話は専門用語が散りばめられていて難しいですね。ただ、同じ専門用語でも音声だけで、たとえば「シンボウサイドウ」と言われるより、文字で「心房細動」と書いてもらう方が理解しやすいはずですよ。そもそも話すだけで患者さんにわかってもらえるはずだと考えるのは医師の傲慢でしょうね。少なくとも「要点は文書や図表で渡したい」と上図のようなリーフレットをつくり、患者さんに渡したのが、私のささやか



齊藤丈夫先生にお聞きしました



齊藤医師（右）と松下薬剤師（左）

なインフォームド・コンセントの始まりです。

医師が患者さんに話す内容は個別性が高く、その個別性を保つためには文書がたくさん必要になります。私が用意したリーフレットは数千種類になりました。幸い電子カルテになってからは、キーワード検索で簡単にさせるようになりました。

乳腺外科の渡辺修医師は、実に上手な絵を描いて患者さんに手術の説明をします。子どものころからキーボードに慣れている世代の医師は話した内容を同時に文字に起こせる才能のある人もいます。私はそういう芸当はできないので、普段からこつこつとリーフレットを準備して診察本番に備えています。

薬剤師との情報共有でより良い薬物治療を

診察室では薬が必要な理由について医師が説明しますが、行き届いた説明をする余裕がないことが少なくありません。薬剤師の説明があれば患者さんの理解の助けになります。疑問点を薬剤師に尋ねることもできます。

しかし、調剤薬局の薬剤師が薬の説明をする際には大きな壁があります。それは、患者さんの病名や医師の処方意図を知ることができないことです。医師と薬剤師が綿密に連携をとれば理想ですが、現在の医薬分業の医療体制では難しいですね。院内薬剤師はカルテを参照できるが、調剤薬局の薬剤師はカルテをみることは一切できません。薬剤師は薬の説明をするにあたって本当は患者のことをもっと知りたいはずですよ。

同じ薬でも適応する病名は複数ある場合が少なくありません。例えば「β刺激遮断剤」という薬の効能は、高血圧、不整脈、狭心症、心不全、振戦など多岐にわたります。うつ病やてんかんでも使う薬を神経痛に使うことも珍しくありません。処方意図が分からずに薬の説明をすることは難しく、的外れになったり、医師の処方意図とは異なる説明になってしまうことがあります。薬剤師は分かる範囲で一生懸命説明したのに、後から医師に苦情を言われることすらあります。

そこで今回、患者さんにリーフレットを2部渡して、

ケアステーションゆず・介護福祉士 前林 未来

ケアステーションゆずでは、松戸市から委託されている介護予防・総合事業「訪問型元気応援サービス・困りごとサービス」の利用者とボランティア（有償）を募集しています。この事業は、住民同士の相互支援、高齢者の参加による地域の支え合いづくりをめざしています。利用できるのは、要支援 1・2、生活支援が必要で事業対象者とされた方です。

元気に楽しくボランティア

木下智子（ちえこ）さんは、この事業に参加するボランティア（有償）の一人です。週2回、Y・Tさんの自宅へ訪問し、買い物代行や掃除の生活支援をされています。木下さんは3年前にご主人を亡くされ、それまでの5年間自宅介護をされていたそうです。その際、デイサービスやショートステイ、訪問看護、理美容などの介護サービスを利用しましたが、「もっと介護の事を勉強しておけばよかった」と思ったそうです。

そこで、「主人が亡くなり、子供たちは転勤族で遠くに暮らしているし…。一人だとただらだらしてしまうので、自分が元気で楽しく過ごせるように、はっぱをかけるつもり」でボランティアに応募されたそうです。

木下さんは、「Y・Tさんはとっても気づかいして下さる方で、いつも私が元気をもらっています。たまに“早く死にたい”と話されることがあるのですが、80歳で亡くなった私の祖母も同じようなことを話していたし、自分もその気持ちがわかるので、よく話を傾聴しています」

「このサービスを始めると自分も、相手のご利用者の方も元気に前向きになれる」と話します。

木下さんの生活はとても多彩で、「ヨガや、散歩もしています。友達と旅行にも行きますよ。学生の頃に強豪校で軟式テニスをしていてそのおかげで今も体力があるのかもしれない。頭の運動のために株をしています」とのことです。

「今 75 歳なので、いつまで元気にできるか…。自分の調子を見ながら元気なうちは頑張りたいです」と、とても楽しそうな木下さんのお話を聞いていて、私もほっこりした気持ちになりました。



1 部は薬剤師さんに渡してもらうことを考えました。処方意図が分かる内容のリーフレットはたくさんありますし、必要ならメモしたりして、薬剤師さんと情報を共有したいと思います。

医学（薬学も）は日々進歩します。医者として経験を積むには、①患者さんから学ぶこと、②ちゃんとした本を読むこと、③学会や研究会に行くことなどがあります。私が最も重視しているのは、①の患者さんから学ぶことです。鼎会の医師はみな、「患者さんから学ぶ」姿勢をもっています。幸樹会の皆さんも「患者さんから学ぶ」姿勢を大切にしておられますね。地域の医療を担う医療機関と看護介護事業所として、一緒により良い連携をめざしていきましょう。患者さんのためになることはこれからもどんどん取り組んでいきたいですね。

からたち薬局のこれからのにも期待しています。

看多機さんしょうの見学研修の感想

千葉健愛会あおぞら診療所で在宅医療研修をされている研修医の方が、さんしょうを見学研修をされ、感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

多職種・多機能の良さを実感

東京医科歯科大学病院 初期研修医 2 年目 松山遼太郎

看護小規模多機能型居宅介護の詳しい役割や機能について学んだのは今日が初めてで、大変勉強になりました。病院での診療に比べ、訪問・在宅での医療は患者さんに関わる多職種の所属施設が異なっているため、情報共有の難しさがあると感じていましたが、看護小規模多機能型居宅介護はその点で多職種が同施設にいることにより情報共有のしやすさ、様々な職種の訪問が可能である、利用者と施設職員の関係性の近さなどの点でより密な診療・介護が可能である点がとても良いと感じました。ただ宿泊の利用者の中で宿泊が継続してしまっている方が多くいる点などはなかなか簡単には行かない点もあるのだなと感じました。自分は今後しばらく病院での勤務が続きますが、退院した後の人々の生活について経験できる貴重な機会をいただき大変有意義な時間でした。

青森から りんご がとどきました

今年も、青森県弘前市の成田富作さんから、りんごがとどきました。ありがとうございます。みんなで美味しくいただきました。

成田さんは弘前では、おでん屋さんを開いています。だんだんお客さんが増えているそうです。





デンマーク便り...④

ラスムッセン 京子

クリスマスイブといえば、熱くなったオーブン、クリスマス音楽、子供たちのためのテレビ・アニメ等が想像されます。ところが12月24日、デンマークのユトランド半島の街フレデリシアでは、クリスマスイブに335世帯が停電になり、想像とはまったく違うイブになったようです。電力会社によると、周辺の多数のヒートポンプの不具合でヒューズが飛んだためだといいます。予想以上に復旧が難航し、停電時間は夕方6時ごろから午前0時前までとなりました。その暗闇の中のクリスマスイブを過ごした家族の話が報道されました。

特別なクリスマスイブ

アン・ブリット・ヘルロフさん一家は、両親と17歳の息子と一緒にクリスマスを過ごしていたのです。5時過ぎ、ポークローストをオーブンで焼いている途中で停電になりました。1カ月前にも同じような停電があり、その時はすぐに復旧したので、今回もすぐに電気が使えるようになると思っていたそうです。ところが、復旧は進まず、豚肉は十分に火が通っておらず、皮もパリパリとは程遠い状態でした。鴨肉は事前に焼いてあったのですが、それ以外のクリスマスディナーの準備は省略せざるを得ませんでした。



そこで、アンは、ワインを2本開け、鴨肉にサラダ、リースアラマンド(牛乳でお米をお粥にしたものを冷やしておいて泡立てた生クリームとあえ刻みアーモンドを混ぜたデザート)やチョコレート、クッキー、オレンジなどを用意しました。温かい主菜は有りませんが、家族はお腹いっぱい食べました。夕食後、アンは古いトランギアセット(写真下)を取り出し、ヘッドランプを点けてキッチンでコーヒーをいれました。

停電は、今年のクリスマスイブを特別なものにしたそうです。電話やテレビ、パソコンに気を取られることもなく、キッチンへ何度も往復する必要もありません。夕方から、新型コロナウイルス、ウォーターゲート事件等の多岐にわたる話が続き、クリスマスソングを歌い、プレゼントを開けました。

プレゼントの中には、新しい携帯電話やマッサージ機など電気が必要なものがいくつかあったそうですが、



アットホームなクリスマス会

こちらは、毎年12月恒例の幸樹会地域交流カフェ・クリスマス会。今年も12月21日、感染予防対策でさんしょうの利用者さんと幸樹会スタッフだけでおこないましたが、グレースホームの岡野牧師によるキリストにまつわるお話、聖歌隊の皆様には賛美歌を歌っていただきました。



会のスタートは、ハーブチキン温野菜添えと命のスープのランチです。スタッフがレシピをもとに前日から仕込んでいたものを召し上がっていただきました。

お腹いっぱいになったところで、冬の手荒れ対策として、からたち薬局・松下サンタ監修によるハンドクリームづくりを皆でおこないました(写真)。クリームのケースに皆思い思いのデコレーションをし、気に入った匂いのアロマを選んでいただきました。最後、皆で体操をして身体をほぐし、デコレーションケーキにシャンメリーというクリスマスの定番でお祝いをして会を締めくくりました。2年続けてのこじんまりとしたクリスマス会でしたが、アットホームで温かな雰囲気クリスマス会となりました。(岡本健吾)

八柱学習会

○12/17、20名参加。

▼次回学習会予定(「定例日:毎月第3金曜日

1月21日(金)18:30~、幸樹会館2階

「地域ケアの変遷と未来-

1975~2020の時代体験と実践から語る⑥」

お話・武井幸穂氏

《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

894KWh

幸樹会館電力使用量4609KWh 自給率19.40%



職員募集! 非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ:本部中野まで、☎047-701-7550